

タウンミーティング 聴きたい、話したい まちのこと

日 時 平成28年10月2日（日）午前10時～11時30分

場 所 南台1丁目町内会館（南台一丁目町内会）

参加者 20人



主な意見等

参加者 20年くらい前になりますが、防火用水がある場所で工事があり、水槽の上を切り始めたので、工事会社にそのことを伝えたところ、市の工事だったのですが、消防署の管轄で図面がないとのことで、工事会社が防火用水のことを知りませんでした。南台一丁目町内会には2か所くらいあるはずですが、市と消防署で情報共有がされていないのではないのでしょうか。盛り土がしてあるので、住んでいる人も特に若い人はほとんど知らないと思います。消防署と連携して誰が通っても分かるように防火用水の表示をしてはどうでしょうか。

市長 消防組合は、市と無関係の団体ではなく、富士見市、三芳町、ふじみ野市でお金を出してつくった団体です。現在は私が消防組合の副管理者をしており、市の危機管理防災課ときちんと連携をとっています。防火用水ですが、現在では火災で実際に使うことはほとんどなく、消火栓を使うことが多くなっているかとは思いますが。

参加者 今の話に関連して、数年前に市から町内会に対し消火栓や防火水槽があるかどうか調査依頼があり、報告をしたので市では場所を把握しているはずですが。確か防火水槽の上には黄色い蓋がされていると記憶しています。

市長 昭和45年頃に消防組合が設立されましたが、それ以前はそれぞれ

の街で消防団という形での活動でした。昔のものは市でも把握しきれれていませんでしたので調査をしました。報告をいただいているということなので、後日市の情報と照合させていただきたいと思えます。

参加者 消防団はいくつあるのですか。

市長 旧上福岡、旧大井に 5 つずつあり、合併したので第 10 分団まであります。この地域だと上福岡耳鼻科の隣に第 1 分団の車庫があります。

参加者 消防団をつくる基準はあるのですか。例えば南台一丁目町内会で消防団をつくろうという話になればつくれるのですか。

市長 消防団は公的な機関で、団員は非常勤の公務員という身分になりますので、結成という形でつくることはできません。入ってくれる人がいれば紹介してもらおうということになります。

参加者 消防団はどのような経緯でできたのですか。

市長 この辺りの消防団は、おそらく明治時代にできたものです。

参加者 時代が変わっていることを考えると、組織も変えなくてはいけないのではないのでしょうか。

市長 当時は消防署がありませんでした。消防団のルーツは江戸時代の町火消しから来ています。消防組合ができてからも消防団は残っていますが、消防署の職員 1 人を雇用するのにかかる経費で消防団 1 つが賄えてしまうというのが実情です。知られていないことも多いので、この周辺で若くてやってくれる人がいれば紹介していただければと思います。

参加者 江戸時代の延長だとして、当時から比べれば人口分布も年齢層も変わってきています。分団が管轄する地域が地理的に遠いなど現状にそぐわない場合もあるでしょう。組織を見直す時期に来ているの

ではないでしょうか。

市長 皆でやった方がいいという理由は、消防団の経験者は、災害時に水を出すなど設備を使えるということが大きいと考えています。知識を持っている人を少しでも増やしておけばいざという時にも対応が可能です。ただし、1番の問題は、消防団の存在を知られていないということかと思しますので、地元の方に協力していただくなどPRの方法を工夫していかなければならないと考えています。

参加者 他の地域の事例ですが、昼間は男性が仕事でいないので、女性だけで消防団をつくっている事例をテレビで見ました。ふじみ野市も取り入れてはどうでしょうか。

市長 現在も女性団員はいますが、防火の啓発を中心に行っています。ご提案のとおり、漁村などでは実例もありますので、先進的な取組ではないかと思えます。

参加者 前回のタウンミーティングで市報の字が小さくて読めないという意見を言ったところ、最近良くなりました。ありがとうございます。

3点ほど意見があります。まずホームページについてですが、暮らしの情報から市の情報、議会の内容まで全体が網羅されていると思います。タウンミーティングについても今までの実績が載っており、他の地域の実態も分かりました。共通認識を持つという意味で効果があるのではないのでしょうか。今話題の政務活動費も領収書を含めきれいに載っていました。今後も引き続きホームページの充実化に取り組んでもらいたいと思っています。先日、議会の一般質問を傍聴したのですが、傍聴者はあまりいませんでした。他市でもやっているところがありますが、議会をインターネット放映してはどうでしょうか。

2点目は、街灯についてです。南台一丁目町内会には街灯が130あって、そのうち一部は町内会が管理しています。先日、そのうちの1か所が切れて町内会の会費で処理しました。市の管理している街灯と町内会の管理している街灯で区別はなく使用されていることを考えると、全体を市の方で管理してもらいたいと思います。

3点目は、2週間くらい前になりますが、町内会で危険箇所のパトロールをしていて、725番のカーブミラーに民家の木の枝が張り出していて、左から来る車や自転車が見えづらくなっていました。それで市にそのことを依頼しましたがまだ処理されていません。これに対し、日頃通っている民間のスポーツクラブの話になりますが、お風呂の蛇口に突起物が出ていたため、危険であることを指摘したところ、翌日には直してくれました。サービス向上という面を考えたとしてもスピードは大事だと思うのですが、改善をお願いできないでしょうか。

市長 1点目の議会のインターネット放映ですが、これについては議会の判断となります。現在議会でも是非を議論しているところではあります。かつて旧上福岡市役所では、議場まで行かなくても議場の様子を見ることができるようロビーで放映するシステムを準備していたことがありました。ただし、市役所にいらっしゃった方が断片的にしかご覧にならないのでは弊害もあるかと思えます。一方、インターネット放映であれば関心のある方がアクセスして、質問から答弁まで一連を聞いていただければ、私はインターネット放映はやるべきだと思っています。

2点目の私道の防犯灯の移管についてですが、所有権の問題や全体で約8,000灯あるということを考えても、公道、私道の区別なく防犯灯を市の管理とするということは現状では難しいと思います。LED化については現在徐々に変更しています。一定のタイミングで大幅に変更したいとも考えています。

3点目のカーブミラーの件ですが、明日状況を確認しますが、民家の場合は、枝を切ってもらうことを依頼します。

参加者 そこは依頼すれば切ってくれると思います。以前、自分から依頼して切らせてもらったこともあります。ただし、毎年個人的に対応するというよりは市で定期的に対応してもらった方がいいと思います。いずれにしても、市に電話をして、結果を教えてほしいと伝えただけでも関わらず、連絡が来ないというのはどうかと思います。スピードというのはお金がかからない部分だと思うので、ぜひ改善をお願いします。

市長 民間の事例を示していただきましたが、まさに私自身もスピード

感は大事だと考えています。例えば月に何百通もいただく私へのお手紙に対しても、以前は3～4週間もかかってお返事をしていましたが、せめて1週間以内にしようということで改善を図るなど迅速な対応を徹底してきてはいますが、まだまだ至らない点多々あるかと思えます。引き続き改善に取り組んでいきたいと思えます。

参加者 水害の関係で寺尾調整池をつくった効果はどうか。

市長 寺尾調整池は、新河岸川の水を流し込むだけで、効果としては十分ではないというのが正直なところ。元福岡はポンプを3基設置し、逆流防止弁をつけるなどの対策により、被害が減ってきていますが、今年の台風9号の際は対応できませんでした。私の経験上でも葦原中まであふれたのは初めてです。最大雨量は1時間に58mmでした。この数字は滅多にないことです。このとき、飯能、所沢、入間、狭山で相当の雨量だったため、時間を置いて新河岸川の水位が急激に上がりました。このため、新河岸川沿いの地域に避難準備情報を初めて出しました。

参加者 介護保険のことをお伺いします。要支援1・2の方のサービスについては市町村が提供する範囲になるかと思えますが、どのくらいの負担になるのでしょうか。この流れでいくと、要介護1・2も市町村の事業として移行してくるのではないかと言う人もいます。要介護状態が進行しないように大事な時期で自立を支援することが重要だと思えますが、そのことを国にお願いすることはできないのでしょうか。ひとり暮らしの方と家族と同居されている方では、病気になったときなど大変さが全然違います。市の職員の方にも実態を確認していただきたいと思えます。

市長 将来的に介護保険制度が立ち行かなくなると、国から投げられる範囲が広がるのではないかと懸念された上でのご意見なのかと思えます。

参加者 要支援1・2になった場合、下がっていいことのはずですが、現実には減らされたという感覚になってしまいます。

市長 要支援1・2の方は、運動機能が少しでも回復していただきたいという方です。認定が下がったという考え方は、サービスが使えなくなるという感覚から来るものだろうと思います。しかし、その方に合った適切なサポートをしていけばおっしゃるように介護状態が進まずにすみます。さらに進めたいのは、要支援にもならないように介護予防にまずは力を入れるということが大事だと考えています。今回の制度改正は、残念ながらお金の流れが変わっただけという感じが否めませんが、介護保険制度自体が成立して17～18年程度です。それ以前は制度自体がなかったことを考えると、介護保険の本来のあり方を見直す時期に来ていると思います。先程介護給付費が年間で61億円かかるという説明をしましたが、例えば高齢者施設が1つできれば介護保険料の基準もおひとりずつ何円か上げて、年間の経費をまかなうという計算になります。これから来年の4月に向け総合支援事業の制度を設計していきますが、自分で立って歩くということは1番の幸せだと思いますので、介護状態が進まないように機能訓練などそれぞれおひとりずつに合ったサポートができるよう取り組んでいきたいと考えています。

参加者 災害関係ですが、トイレの対応はどうなっていますか。紙のトイレの場合、大量にごみが発生すると思うのですが。

市長 トイレや防災備品など少しずつ増やしています。

参加者 し尿処理施設が駄目になってしまうと、マンホールトイレも駄目になってしまうかもしれませんが、それだけでも増やしてほしいと思います。紙のトイレは長期化には対応できないし、学校もおそらく長期に渡って開放はできないでしょう。衛生上、病気を増やす原因にもなりますので、ぜひ対応をお願いしたいと思います。

参加者 お店をやっている人は、ほとんどの人が国民年金です。やめた場合に食べていくのは難しいかと思います。その場合、シルバー人材センターでの仕事はどのくらいあるのでしょうか。就労率はどのくらいなのでしょう。また、市にできたハローワークでも仕事を紹

介してもらえるのでしょうか。

市長 シルバー人材センターの場合、就労率という点では難しいですが、植木屋さんの経験があるとか、調理ができるとか、分野的に技能をお持ちでしたらマッチングも早いかなと思います。また、仕事を打ち切る前にまずは、市のふるさとハローワークに行ってもらって将来的なことも含め相談してもらった方がいいかなと思います。